

第1章 小売・仲介、代行

書籍③ 電子書籍

iモードなどの携帯端末が普及の突破口に 業界内での統一規格を模索中

ネットワーク型書籍が注目

小説やコミック・写真集など既存の書籍を電子化した電子書籍は、音楽・映像と並んで、2000年以降インターネットを通して普及が期待されている分野の1つだ。特に市場が確立している百科事典のCD-ROMなど「パッケージ型」の商品より、ネットを媒介する「ネットワーク型」が注目されている。

著作権処理が課題

現在の状況を見る限り、ネットワーク型の電子書籍は紙の出版物に比べてビジネス的にはまだまだこれからという段階だが、出版業界としての取り組みは進んできている。電子書籍配信サイトで現在販売されているコンテンツを見てみると以下のように分類できる。

①コミック、写真集など画像中心

コミックは、既存の紙媒体においても雑誌売り上げの半数近くを占める出版業界の牽引的な存在であり、ダウンロード販売の市場でも牽引的な存在になると期待されている。小学館、講談社、白泉社の共同サイト「まんがの国」^{Jump01}では、「GTO」「名探偵コナン」「金田一少年の事件簿」など、連載中の人気作品がダウンロード可能。最新号に掲載された連載中のマンガを一回分50円で販売している。博報堂と豊田通商の出資によるインディビジオも、サイト「FRANKEN」^{Jump02}で集英社などからコンテンツを供給、本宮ひろ志などのコミックを販売し、業績も好調だ。

②発刊してから時間がたった作品

コミック以外では、紙の書籍と食い合いをしないように、発刊してから半年～数年たった作品を電子化して販売するコンテンツが主流になりつつある。独立系

の「電子書店パピレス」^{Jump03}は、1995年よりパソコン通信での販売を展開した老舗。ここでは新刊から時間がたった既刊本のコンテンツを40社以上の出版社から提供され、電子化して販売している。既存の大手出版社では光文社の「光文社電子書店」^{Jump04}が1999年に先駆けてスタート。赤川次郎や大藪春彦など人気作家の過去の小説を500冊以上ラインナップし、現在でも毎月20点ずつ付加している。

出版業界には単行本の新刊が出たあと、数年後文庫化して販売するという流れがある。しかし、最近「電子書店パピレス」のコンテンツの中には新刊後3か月程度の短いサイクルで電子化されているものも出始めた。また、最近では村上龍氏の「JapanMailMedia」がメールマガジンから書籍化されるなど興味深い現象が起こっている。

③著作権の切れた作品

①・②とも、問題になるのは著作権処理である。既存のコミック・書籍を出版社が電子化してダウンロード販売するためには、既刊の書籍を発刊するために結んだ出版契約書とは別途契約を行う必要がある。その際、作家がダウンロードファイルの不当コピーを恐れて同意しないケース、印税配分などの見直しを主張するケースが出てくる。交渉は煩雑で、折り合わないケースもある。

その点、著作権切れの作品は電子書籍化しやすい。独立系の「青空文庫」^{Jump05}、「ゲーテンベルグ21」^{Jump06}といった電子書籍サイトが古典的な名作小説を主体にしているのも、これらがすでに作家没後50年経過した著作権切れの作品だからである。

電子書籍の標準化を目指す

現在の具体的な電子書籍は、出版社や業者が個々に動いているという感があるが、業界全体としても「いずれ電子メディアの比重が高くなる」という認識はある。出版社、電機・通信機器メーカーなどを中心に98年10月に発足した「電子書籍コンソーシアム」が1999年の10月から2000年の1月にかけて行った実験がその代表だろう。専用の読書端末を利用して、ユーザーがどのコンテンツを好むのか研究した。各出版社は実験結果を持ちかえり、以降の材料にする。今後は光文社を中心に集英社、講談社などの大手8社が作った電子書籍の研究会の動きが注目されることである。

携帯端末に注目集まる

今後、電子書籍ビジネスが成功するかどうか、これは商品の価格以前に「パソコンや専用端末で活字を読む習慣がユーザーに生まれること」にかかっているといえるだろう。

そこで今後最も注目されるのがiモードなど携帯端末への配信である。iモードはすでに端末として普及しており、ユーザーはテキストをスクロールして読むのに抵抗がない。ザウルスへの配信とともに、活字中心の電子書籍普及への突破口になるのではという期待は大きい。2000年からは電子書店パピレスが販促のために小説の一部をとり出して配信を始めた。さらに小学館の「小学館i」も4コマ漫画などの配信を開始している。

(野辺名豊 フリーライター)

^{Jump01} <http://manga.accessticket.com>

^{Jump02} <http://www.franken.ne.jp>

^{Jump03} <http://www.papy.co.jp>

^{Jump04} <http://www.kobunsha.com/kappa/>

^{Jump05} <http://www.aozora.gr.jp>

^{Jump06} <http://www.gutenberg21.co.jp>



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp